

うかれ坊主 (七枚続花の姿絵)

男裸でなア

百貫かんの寒も土用も

わしや苦にやならぬ

ほんに工

お門へ立つた一文に

見限ぎられたる破れ衣

手桶と身柄一心に

浮世を渡る道楽寺

八宗九宗丸呑に

酒むに如来鼻の下

食ふ殿建立

と来たりやなトトトトト

ときほい口

「さらば和尚が身の上話

一寸ちよぼくにかけべえか

ヤレどらが如来

やれ ちよぼくれ

ちよんがれそも わっちが

すッべらぼんの

野っべらぼんの

野っべらぼづのすっべらぼんと坊主になった

いはれ因縁

コレ聞いてもくんねえ

然も十四のその春はじめて

一軒となりの其又隣りの

いつちくたつちく

太衛門どんのおんばさんとちよぼくり

色のいの字の味を覚えて

裏の神さん向ふのおばさん

お松さんにお竹さん

しいたけさんに干瓢さんと

さわり次第におてん枕で

やった揚句が女郎と出かけ

ヤレ 畜生め

そこらでやらかせ

手練手管にがららかかって

家には片時おいども据らず

舟じゃあぶねえお駕籠で来なせ

なんのかのと親切ごかしに

いよいよ首つたけはまって

のめつたりむくむくつた

其時は

ぶん流したる大じゃれに

さればこれからませこそせをどりはどうじゃいな

〽オット来なせ

面白や

〽上り夜舟の櫂や櫓ぢやとて舵を取ったへ

佐田やひら方淀水に

車ぐるぐるくと伏見へつくエ

〽オーイ

〽おやじ殿

其金こつちへ貸してくれ

〽与一兵衛仰天し

いえ〽金では御座りません

〽娘化粧すりや狐がのぞく

〽賽の河原の地藏尊

〽一とつとや一夜明くれば賑かで飾り立てたる

〽松一木変らぬ

〽色の世界に色なき者は

〽わしとかゝさんと糸取って居たら

トノ事いの

〽東上総のいちみの郡村の小名をばかね

〽沖に見ゆるは

肥後様のエソレそれ船よ

〽紋は九ツ九耀の星

〽蝶々とまれや菜の葉がいやなら霞の先へとまらんせ

〽とんび鳥にならるゝならば

飛んで行きたや主の側

〽主と二人でわしや暮すなら

酒で苦労もおきながし

〽鍋釜へつつい

銅壺やかんに播鉢か

すりこぎか

ついでにおやじも添えしやいな

〽めつたにしまかせ足ませ

源八和尚は雲をやみいさみ

〽散らして走り行く。